

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400641		
法人名	株式会社 ラッシュ		
事業所名	グループホーム 柳緑の里 (Aユニット)		
所在地	出雲市斐川町学頭1815-6		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigokennsaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	鳥根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和3年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

”柳緑は1つの大きな家族です”という基本理念の下、自分がされて嫌なケアは行わない。自分の親族を胸を張って入居してもらえるケアを継続している。日常では「今行える事」を重視し、利用者様との会話を大事にし、出来るだけ自らやりたいと言ったり思ったりされる支援を行っている。また、里便りとして、担当者が利用者様家族に毎月写真やイラストを中心とした通信を郵送している事は大変好評である。柳緑の里に入居され楽しみや出来る事が今以上に増え、家族様ともその状況を共有し、一日でも多く安心して笑顔で過ごされるよう支援させて頂きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に起業してから、高齢者福祉の事業を多角的に運営している株式会社ラッシュにより開設された当グループホームは、開所2年が経過した。国道9号線沿いの宍道湖のほとり、平田方面、雲南方面にも幹線道路が交差して交通の便がよく、ホームセンター、鯛焼き屋、ラーメン店など人々が集う賑やかな立地である。ホーム内では、2ユニット各ホールで利用者さん方が、それぞれにお茶をしながらだんらんしたり、拭き掃除や献立書き、また、写経など役割や趣味に取り組む姿が見られた。それらは、利用者さんが望む暮らしを職員が丁寧に聞き取り、できること、したいことを引き出して、実行可能にしているため、それぞれの利用者さんの表情はいきいきとしている。一日一日、一瞬一瞬を楽しく幸せに過ごすために、今できることを、利用者さんにしてもらおうと職員は取り組んでおられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念の下、事業所としての計画書を作成し、各人年2回と随時の面談を行っている。また、管理者推薦図書をスタッフに渡し情報共有を行っている。	「私たちは、一人ひとりの個性を尊重し、コミュニケーションを大切にしながらアットホームな雰囲気の中で、楽しく、ご自身の役割発揮ができるよう支援いたします」という理念は日々のケアに生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者作成の雑巾を不定期でコミュニティーセンターに寄付している。 ・JAに注文をかけ定期的に食材配達をしてもらい、地元産の食材使用を継続している。 ・地域の美化作業を積極的に行っている。	松江市と出雲市との境界に位置しているの で、出雲市側との地域交流だけでなく、松江側の店や施設も利用して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域発信は今後の課題であり、地域の要望があれば対応していく体制は整えている。まずは、公共道路の美化活動を少しずつ行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症に伴い、書面会議を実施。会議内容は職員に回覧し、外部へは玄関にファイルを設置して情報共有に努めている。	書面会議であっても、ホーム側の報告に対して感想や意見が活発になされており、メンバーは協力的であり、コロナ禍にあって、施設への支援は厚い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	文書開催で運営推進会議実施。 毎月の報告書を持参時にホームの近況を報告している。	今年あまり、相談案件はないが、行政とは、いつでも相談できる顔の見える関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を3か月毎に開催している。 職員会議でも毎回講師を変え、職員一人一人が学び、自分のこととして考えられるよう研修報告書の提出を義務付けている。	国道側には、フェンスが張り巡らしてあり、安全面には配慮している。利用者さんはいつでも行きたいところへ行けるし、自由に活動できるよう見守られている。身体拘束はまったくない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議にて学習会を定期的に開催し、上記同様報告書の提出と共に会議内で拘束・虐待のコーナーを設け一人ずつ発表の機会を持っている。 ・外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記に該当する利用者はいない。 成年後見制度等の学習を施設内研修にて行っていく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、契約に要する時間は短縮しつつも事前説明を行ったりしている。その際不安や疑問の有無も合わせて確認する事を継続している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設への要望を入れるアンケートBOXを玄関に置き意見の集約を図っている。現在面会がフリーとなっていない為、電話やラインにて対応している。	利用者家族は、本人のいきいきとした暮らしぶりに満足しており、入居当初に安心感を持ってもらうため、一緒に泊まったり、面会に来るなど協力的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低年2回の個人面談実施と、職場会議を月1回全員参加で行っている。また、本部へは定期的に管理者が出向き、報告や法人との意思疎通図っている。現場はリーダーを中心に、管理者は随時リーダーと面談を行い問題解決を迅速に行う事を継続している。	職員は、就職当初から様々な場面において施設長からのOJTを受けながらスキルアップしており、やる気を持って、質の高いケアに努めている。様々なアイデアや意見は日々のケアに生かされている。職員家族が施設のために作ったテーブルの木工品は美しく使い勝手がよい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善加算を算定。資格、経験に応じた昇給制度を設けている。各人の希望に応じた形の有休取得も推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・キャリアパスに準じた研修への参加。 ・感染症学習、認知症研修等外部研修への参加継続。 ・研修は全て勤務扱いにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他のグループホームとの交換研修の取り組みを計画している。 ・法人内からの訪問評価を受け、実践に生かす取り組みを継続中。 ・出雲市事業所連絡会に加入しネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報収集を必ず行い、生活や今できることを特に聞き取るようにし、スタッフと情報共有しケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、入居に至る経緯を丁寧に聞いてスタッフと情報共有しケアにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	帰宅願望の強い方にはキーパーソンの方に入居時一緒の部屋で過ごしていただき、不穏状況の軽減を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どの方にも今の状況で何が出来るかをスタッフが観察し、ご本人に作業を提案して納得のいく活動展開を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月の里便りを施設からの通信として継続している。 ・随時電話、ラインを駆使し本人、家族の絆を大切にケアしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時、電話対応で連絡が取れるよう支援している。又、馴染みの場所へは要望を聴きドライブにでかけたりしている。	利用者さん方は、近隣からの入居が多く、制限付きではあるが面会も多い。個別にその方の家や馴染みのお店、お墓参りなどに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関係を保てるためには座席位置が重要なため職員同士連絡を密にし臨機応変に位置を設置している。利用者様が円滑な人間関係を保持できるよう、会話の橋渡しは適宜行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も困った事が生じたら相談窓口である事をインフォメーションし、実際相談受け付け業務を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方シートに担当者が本人と話し合い記入する事で、ニーズの掘り起こしを行っている。又、表現出来ない方については行動や以前の様子からアセスメントし、シート記入を行っている。	認知症が進むとなかなか思いをうかがうのは難しい。ホームでは、様々なコミュニケーション技術も習得しており、ユマニチュードなども行い、利用者との深い思いの共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書より会話やご家族の面会時の聞き取りを行い今できること、得意とする活動に着目し職員間で情報共有する事を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意な事、以前行っていた事を観察、情報収集し役割発揮に繋がれるような支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標を大事にし、今の課題を担当者を中心にユニット全職員が共通認識を持ち、定着した事は削除して新しい目標設定を随時行なっている。	利用者さん、家族とともに作られた介護計画は、個性や思いを尊重されたものとなっており、職員全員にも周知され、日々の小さな変化にも気づき良い対応へとつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践を個別カルテに記入し、ユニット毎に連絡帳を作成して小さな気づきを情報共有する事を継続している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来受診は基本家族対応だが、場合によっては職員対応も行っている。また、美容サービスも受け入れ、毛染め、ハンドマッサージ、爪磨きも継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーにて受診されたり、利用者様家族より野菜提供があった時は利用者様による調理を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医3名による月1回の往診と家族様対応の外来受診を行っている。往診の際には職員が付き、近況報告を口頭と文章にて、外来は文章を家族様に渡し主治医に情報提供を行っている。	健康状態は毎日きちんとチェックされており、定期受診以外にも必要に応じて医療につなげている。家族が対応できないときには職員が付き添い、詳細な報告もあるので、家族の満足度は高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との契約は現在はないため、管理者が主治医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は迅速に情報提供書を渡し、入院後も地域連携室に連絡を取って入院中の様子を把握し、職員に連絡帳等で伝えている。退院前には家族様に了承を得て主治医からの症状説明に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始前に看取りについて確認している。また、状態に応じてその都度その時の主治医と連携して話を進めている。	重症化していくときには、都度本人、家族とよく話し合い、納得のゆく対応に心がけている。何人かの方々が話し合いの後退所されたり入院されたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場会議の学習会として、専門講師を招き救急救命講習を受講し、普通救命講習修了証を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出雲市のハザードマップを確認し、避難計画は立案している。避難訓練は終了している。	夜間想定などでの避難訓練は、年二回行っていく。近くの温泉施設や学校など近隣施設や住民からの協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時には必ずノックし対応している。また、毎月の職員会議にて接遇のコーナーを設け、全職員が人権尊重に配慮できるようにしている。	皆さんそれぞれにおしゃれな身繕いで、ゆったりと過ごしておられる。職員の声掛けは丁寧で優しい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に添えるよう面会だけでなく電話での会話の確保も行っている。日常会話も利用者様が選択し自己決定できるような内容を増やす努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本利用者様のペースに合った生活支援を行い、入浴も決められた日ではなく臨機応変に変更し、食事についても状態観察しその日の体調に応じた時間に食事提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替えは自己選択を見守っている。身だしなみ、おしゃれに関しては特に家族様と連絡を取って本人希望の品を持参してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際職員が隣席に座り、楽しい雰囲気の話提供を行っている。また各人の役割発揮で家事手伝いを行ってもらっている。食事の際何気なく嗜好調査を行い、食事やお菓자에繋げている	オープンキッチンが職員と利用者さんとの緊密な関係を醸成していて、会話の弾む楽しい食事風景となっている。料理作りの楽しさを利用者さんも体験できている。クリスマスにちなんだ昼食がクリスマスツリー飾りとともに供されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表に各人の記録を残し、病状に配慮して水分量を提供している。食欲不振の方へは家族に連絡し本人の好きなものを持参してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に嚥下体操を楽しみながら行えるよう配慮している。口腔ケアでは見守りを随時行い、各人に応じた方法でケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表と場合によっては各人に応じた個別排泄チェック表を作成し日中はトイレでの排泄排泄を出来るだけ自立できるよう支援している。	排泄が難しい方にはさりげない声掛けでトイレに誘っている。トイレは広く清潔で、臭いはまったくない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表に排泄項目を作り、便秘にならないよう主治医と連携し、下剤の服用も個別に行ったり訪看導入も行ったりしている。また、薬のみに頼らず体操や腹部マッサージ等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各人の様子を観察し、入浴を無理強いすることなく状態に合わせて臨機応変な介助を行っている。	入浴設備は個浴、特浴と充実している。身体保清とともに、リラックスタイムとしても楽しめるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明、温度、湿度の環境を整え、安眠できる環境整備を行っている。また夜間良眠できるように日中の活動をアクティブにするよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の内服情報をファイルしすぐ確認できるようにし、変化に対しては主治医と連携しその方が常にベストでいれる服薬状況を実践している。受診の際には必ず生活情報を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム生活で食事の盛り付け、台拭き、片付け、日めくり等各人に応じた役割発揮の支援を行っている。活動のルーチン化が定着してきた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブと、混雑しない場所の花見を行っている。	コロナ禍にあっても、感染防止対策をしたうえで、外出や散歩などホームに閉じ籠らないくらいとなるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の預かりは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や現況をみて施設から家族に連絡を取り次ぐ事をしている。携帯所持の方もいる。家族から利用者様宛てに手紙を書いてもらう事も行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室に温度計、湿度計を設置し環境整備に努めている。ホールには特にプラズマや空気清浄機を設置している。	ホールには中庭からの採光が明るい。白を基調とした木造建築は住みやすく、介助しやすい構造が随所にうかがえて好ましい。反射を利用した照明がグラデーショナルとなっているのも、洒落ている。空調にもよく配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置き自室とは違ったくつろぎを感じていただけるよう配慮している。また、くつろぐことと同時に共同空間にて下げ足による浮腫対策も各人に合わせて行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛着のある物品を持ち込んでもらったり仏壇持参で心の安定を図ってもらったり好きな写真を自室においてもらったりすることで快く過ごしていただける工夫を家族と共に行っている。	利用者さんに案内してもらったお部屋は明るく清潔であった。いろいろな家具や衣装掛けがあり、個性的に設えられている。プライベート空間を大切にしておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自らトイレへ行けるよう表示を行ったり、各居室にはボードを置き自室確認のため一緒に表札作りもしている。		